

井筒 (いづつ)

仕舞

高砂 上野雄介
富士太鼓 立花香寿子

地謡 池内光之助
井戸良祐
林本 大
梅若雄一郎

能 井筒

シテ 梅若 猶義
ワキ 江崎正左衛門
間 善竹 隆司
笛 樋矢 亮
小鼓 上田 敦史
大鼓 上野 義雄

後見 梅若基徳
地謡 笠田祐樹
大西礼久
小西弘通
梅若 堯之
立花香寿子
上野雄介
永田克壬

諸国一見を志す旅僧が、奈良から初瀬に行く中、在原寺を訪れ、業平とその妻を弔います。するとそこへ、一人の里女が現れ、井戸の水を汲み上げ、古塚に手向けています。僧がいぶかって尋ねると、それが業平の墓であることを教えるので、業平のゆかりの者かとたずねると、女はそれを否定しつつも、問われるままに次のような事を語ります。

業平は紀有常(きのありつね)の娘と浅からず契りながらも、一時、高安の里の女の許に通っていたが、「風吹けば沖つ白波龍田山、夜半にや君が独り行らん」という歌を詠んで、自分の身を棄じてくれる妻の真心にうたれて、元に戻った話や、幼い頃、この井筒のそばで三人遊びたわむれたが、幼馴染の親しさが長じて恋となり、「筒井筒井筒にかけしまろが丈、生ひにけらしな、妹見ざる間に」「比らべこし振分髪も肩過ぎぬ、君ならずして誰か上ぐべき」と歌を詠みかわして夫婦になった話などをします。そして、自分こそ井筒の女と呼ばれた有常の娘だと名乗って、井筒の陰に姿を消します。

〈中入〉旅僧は来合せた樸本(いちのもと)の者からも業平夫婦の話聞き、先の女は有常の娘の化身であるから弔ってやるように勧められます。旅僧は、回向をし、夢の出会いを期待して仮寝をします。すると井筒の女の霊が、業平の形見の衣装をつけて現れ、舞をまい、我が姿を井筒の水に映して業平の面影をなつかしみますが、やがて夜明けと共にその姿は消え、僧の夢も覚めます。

◀ 火入れ式 ▶

狂言 蟹山伏

山伏 善竹 隆平
蟹の精 善竹 彌五郎
強力 上吉川 徹

後見 上西良介

蟹山伏 (かにやまぶし)

修行を終えた山伏が、従者の強力(ごうりき)を従え帰郷する途中、蟹の精が飛び出してきたのと出会う。

強力が金剛杖で打ち掛かろうとするが、逆にはさみで耳を挟まれてしまう。山伏は祈禱の力で懸命に助けようとするが、祈るほどに強く挟みつけられ、ついには山伏までも耳を挟まれてしまい……

仕舞

班女アト 小西弘通
蕉 池内光之助
天鼓 梅若堯之

地謡 井戸和男
立花香寿子
今村哲朗
永田克壬

熊坂 (くまさか)

都の僧が東国修行を志し、旅に出て美濃国(岐阜県)赤坂まで来た時、一人の僧に呼びとめられます。そして、今日が命日の者のために回向をしてくれと、草原の中の古墳に伴われ、ついでその僧の庵室に案内されます。みると、その庵には仏の絵像も木像もなく、大薙刀や武器が並べられているので、不審に思って尋ねます。すると、この辺りは山賊夜盗が出没するので、通行人の危難を救うための用意で、この土地では頼りにされていると答えます。そして「おやすみあれ」と何処ともなく去って行きます。

〈中入〉旅僧は、草庵が消えて、松陰の草むらに座しているのに気がつきます。丁度来合せた土地の人から、この地で討たれた熊坂長範(くまさかちやうはん)の話聞き、さては以前の僧は熊坂の幽霊であったかと思い、読経し回向をしていると、薙刀をかついだ長範の亡霊が現れ、ここで奥州へ下る金売吉次(かねうりきちじ)一行を襲ったが、かえって牛若のために討たれた次第を物語り、松陰に隠れるように消え失せます。

半能 熊坂

シテ 井戸良祐
ワキ 江崎欽次郎
笛 斎藤 敦
小鼓 高橋奈王子
大鼓 森山 泰幸
太鼓 上田 慎也

後見 林本 大
地謡 上野雄介
井戸和男
梅若基徳
今村哲朗
笠田祐樹
梅若雄一郎
梅若秀成

【能「井筒」「熊坂」のあらすじは
権堂芳一著「能楽手帳」より出典】

司会 大木幸子



5/11(月) 事前講座「能への誘い～薪能によせて」
 13:00～15:00 <講師:井戸良祐>
 受講料 アゼリアカルチャーカレッジ会員1,650円 / 一般1,870円(税込)
 当日使用する能面、装束、小道具などを出演者が詳しく解説。
 装束付けの体験もあり、説明を聞いてから鑑賞すると物語をよりいっそう深く理解していただけます。
 会場・申込:アゼリアカルチャーカレッジ Tel:072-761-0660
 〒563-0031 池田市天神1-9-3 池田市立 カルチャープラザ 内